

令和7年度 第4回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和7年9月16日（火）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子、大橋 信之
増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行状況について（資料1 P 1～ 15）

新型コロナウイルス感染症は、冬季に加え夏季にも流行が見られる傾向にあり、今夏においては第33週（8月11日から8月17日）の定点医療機関からの患者報告数が呉市保健所管内において定点当たり9.09となるなど、広島県が定めた新型コロナ医療ひっ迫注意報基準（定点医療機関当たり8）を上回ったことから、8月21日、広島県は「新型コロナ医療ひっ迫注意報」を発令している。

本市においても、第36週（9月1日～7日）の患者報告数が1医療機関当たり8.14となり、注意報レベルを上回ったため、9月10日付けで広報を行った。

また、医療施設や高齢者施設における新型コロナウイルス感染症の集団発生の報告が第31週（7月28日～8月3日）以降増加している。中でも8月25日から31日の期間中には10件の集団発生が報告されており、今後も患者数が増加することが懸念される。

引き続き、市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を徹底するよう市のホームページ・SNS等を通じて呼びかけ、市民の健康保持や医療機関のひっ迫の抑制等に努めていくこととする。

（委員意見）

- ・ 医療機関を受診する若年層には軽症者が多く、不顕性感染者も一定数存在すると考えられる。引き続き発生動向を注視するとともに、市民に対する感染予防対策の周知を継続して行う必要がある。

(2) 令和7年度インフルエンザ・新型コロナウイルスワクチンの定期接種について（資料1 P 16～ 33）

令和7年度におけるインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症定期接種（B類疾病）については、以下のとおり実施する。

区分	内容
対象者	・ 65歳以上の者 ・ 60～64歳で心臓、腎臓、呼吸器の機能障害又はヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に身体障害者手帳1級相当の障害を有する者
接種期間	令和7年10月15日（水）から令和8年1月31日（土）まで
自己負担額	インフルエンザ：1,600円 新型コロナウイルス感染症：11,800円 ※ 生活保護世帯又は市民税の所得割非課税世帯に属する者は自己負担を免除する

また、2025/26シーズンの新型コロナワクチン定期接種については、昨年同様、5社のワクチンが供給されることとされており、その抗原組成は、国の審議会において『1価のJN.1、KP.2若しくはLP.8.1に対する抗原又はXEC（令和7年5月現在流行しているJN.1系統変異株）に対して、広汎かつ頑健な中和抗体応答又は有効性が示された抗原を含む』こととされた。

さらに、上記抗原組成を含むワクチンは、JN.1対応ワクチンと比較して、JN.1及びその下位系統（XEC、LP.8.1等）並びに近隣のNB.1.8.1に対しても、同等以上の中和抗体を誘導し、効果が期待できると考えられている。

本市としては、定期接種開始に向けて必要となる準備等を進めるとともに、対象者及び医療機関への周知を図っていくこととする。

（委員意見）

- ・ 今後の接種率について注視する必要がある。

(3) 国内における麻しんの発生状況について（資料1 P 34～ 52）

海外渡航歴が確認されていない国内症例や当該患者からの二次感染が疑われる事例等、麻しん患者の発生が散発的に継続しており、2025年においては、国内では第35週（8月25日から8月31日）までに累計222件の報告があり、過去10年で2番目に発生数が多かった2018年（報告数：279件）を上回るペースで報告されている。特に福岡県においては、第33週から第35週にかけ15件の患者が報告されており、今後の患者発生が懸念される状態となっている。

患者の発生報告を受け、福岡県や福岡市は週報や報道発表資料等を活用し広く情報の発信を行っている。

る。福岡県においては、感染可能期間内に患者が利用し、接触した可能性がある者のうち、発熱、発疹等、麻しんを疑う症状が現れた者については、外出を控えるとともに最寄りの保健所に連絡するよう呼び掛けており、医療機関受診の際のマスク着用を徹底すること、公共交通機関の利用を避けること等について注意喚起をしている。

麻しんの感染力は非常に強く、飛沫感染、接触感染だけでなく、空気感染でも感染するため、広域的に患者が発生するおそれがある。

本市としては、引き続き今後の発生動向について注視していくこととする。

(委員意見)

- ・ 引き続き今後の発生動向に注視する必要がある。

2 8月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和7年8月分	令和7年9月分
		報告日 8/4～8/31	報告日 9/1～9/10 現在
2類	結核	13 人 (結核 9 人, 潜在性結核 4 人)	3 人 (結核 3 人, 潜在性結核 0 人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	6 人(1 人(8/18), 1 人(8/19), 1 人(8/20), 2 人(8/23), 1 人(8/29))	
4類	E型肝炎	1 人(8/19)	
	A型肝炎	1 人(8/20)	1 人(9/1)
	日本紅斑熱	1 人(8/20)	
	レジオネラ症	1 人(8/4)	2 人(1 人(9/3), 1 人(9/6))
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2 人(1 人(8/4), 1 人(8/8))	
	後天性免疫不全症候群	1 人(8/8)	1 人(9/1)
	梅毒	16 人(2 人(8/7), 1 人(8/8), 1 人(8/12), 1 人(8/18), 3 人(8/20), 2 人(8/21), 1 人(8/25), 2 人(8/27), 2 人(8/29), 1 人(8/31))	6 人(1 人(9/2), 2 人(9/3), 2 人(9/5), 1 人(9/8))
	百日咳	116 人(12 人(8/4), 5 人(8/5), 11 人(8/6), 2 人(8/7), 11 人(8/8), 2 人(8/9), 1 人(8/12), 2 人(8/13), 3 人(8/16), 6 人(8/18), 5 人(8/19), 10 人(8/20), 9 人(8/21), 2 人(8/22), 6 人(8/23), 3 人(8/25), 2 人(8/26), 10 人(8/27), 5 人(8/28), 5 人(8/29), 4 人(8/30))	47 人(8 人(9/1), 1 人(9/2), 7 人(9/3), 5 人(9/4), 3 人(9/5), 2 人(9/6), 8 人(9/8), 5 人(9/9), 8 人(9/10))

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和7年11月17日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、8月は7,258人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,660人で、前月比0.92とほぼ横ばいであった。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、RSウイルス感染症は大きく増加、マイコプラズマ肺炎は増加、水痘はやや増加、流行性角結膜炎はほぼ横ばい、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、突発性発しん、急性呼吸器感染症（ARI）はやや減少、咽頭結膜熱は減少、手足口病、ヘルパンギーナは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、増加傾向が続いており、第36週（9月1日～7日）に定点当たり8.14人の報告があった（図1）。また、高齢者施設等での集団発生も増加している。県内では、呉市保健所管内で基準値（定点当たり8）以上となったため、8月21日に新型コロナ医療ひっ迫注意報が発令された。手洗い、換気、咳エチケットなど、感染予防対策を徹底することが重要である。
- RSウイルス感染症は、第36週に定点当たり0.41人の報告があった（図2）。全国では増加傾向が続いており、注意が必要である。生後6か月以内の乳児や慢性呼吸器疾患などの基礎疾患を有する高齢者が感染した場合は重症化しやすいため、特に注意が必要である。

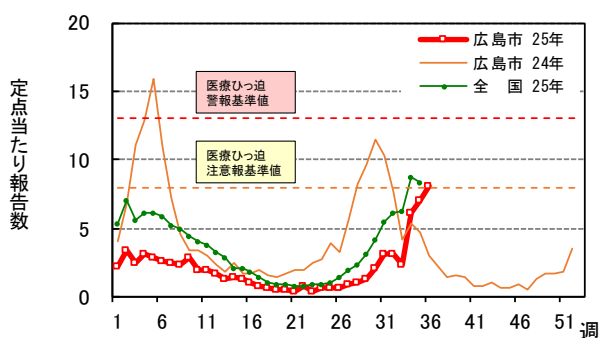


図1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行状況

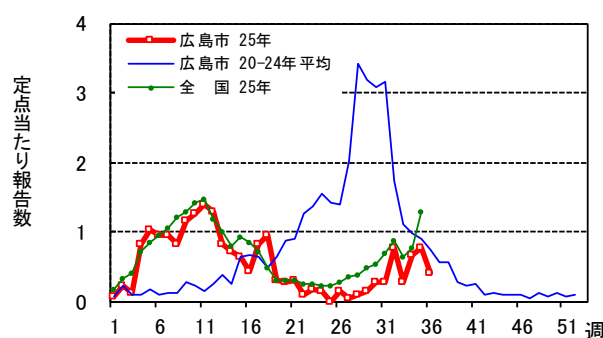


図2 RSウイルス感染症の流行状況

- マイコプラズマ肺炎は、第36週に定点当たり1.00人の報告があった。全国では増加傾向が続いており、注意が必要である。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策が重要である。
- 腸管出血性大腸菌感染症の今年の累計報告数は、9月7日時点で26件となり、2012年以降で最も多かった2024年（年間28件、同時期21件）を上回るペースで増加している。感染予防には、加熱が必要な食品の十分な加熱、野菜・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。
- 百日咳は、第31週（7月28日～8月3日）の59件をピークに減少傾向となったが、多い状況である。乳児は重症化リスクが高く、特に注意が必要である。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。

(3) 8月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核13件（患者：9件、潜在性結核：4件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、A型肝炎 1件、日本紅斑熱 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2件、後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 17件、百日咳 117件

(4) 今後の流行予測

RSウイルス感染症・・・【流行始まり】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎、百日咳・・・【流行中】

2 検査情報

8月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
手足口病	エンテロウイルス 71 型	5 月	1 人
	エンテロウイルス 71 型	6 月	1 人
	エンテロウイルス 71 型	7 月	1 人
伝染性紅斑 突発性発しん	パルボウイルス B19	6 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A4 型	6 月	1 人
	コクサッキーウイルス A4 型	7 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54 型	5 月	1 人
	アデノウイルス 54 型	6 月	1 人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	*1 百日咳菌	6 月	1 人
	*1 ライノウイルス		
その他の神経系疾患（脳症）	*2 コクサッキーウイルス A4 型	6 月	1 人
	*2 ライノウイルス		

*1～2：複数病原体検出例

10 人の患者から 5 種類のウイルス 11 株、1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、エンテロウイルス 71 型、コクサッキーウイルス A4 型が各 3 株、アデノウイルス 54 型、ライノウイルスが各 2 株、パルボウイルス B19 が 1 株であった。検出細菌の内訳は、百日咳菌が 1 株であった。

【参考】ARI 病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	A(H1N1)2009型 インフルエンザウイルス	A(H3)型 インフルエンザウイルス	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルスノ エンテロウイルス	アデノウイルス
第31週	19	9					2	1	1						6	1
第32週	20	9					1							1	7	1
第33週	5	4						1		1				1	1	
第34週	13	9					4		1						4	1
第35週	14	9					4	2	2					1	2	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

5類感染症定点情報
(令和7年8月解析分)

1. 週報対象(第32週～第35週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)		5,598	164.88		11	突発性発しん		18	0.87	
2	インフルエンザ		7	0.23		12	ヘルパンギーナ		38	1.78	
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		628	18.54		13	流行性耳下腺炎		1	0.07	
4	RSウイルス感染症		53	2.51		14	急性出血性結膜炎		-	-	
5	咽頭結膜熱		21	0.95		15	流行性角結膜炎		28	3.80	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		147	7.02		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎		332	15.89		17	無菌性髄膜炎		3	0.50	
8	水痘		20	0.98		18	マイコプラズマ肺炎		75	12.50	
9	手足口病		26	1.31		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑		249	12.02		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(8月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	3.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		8	0.89
3	尖圭コンジローマ		9	1.00
4	淋菌感染症		17	1.89
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		14	2.33
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和7年8月分)

第32週～第35週(8月4日～8月31日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	13	89	1,230	9,398
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	1	7	37
	17 腸管出血性大腸菌感染症	6	26	711	2,429
	18 腸チフス	-	-	2	20
	19 バラチフス	-	-	2	6
四類	20 E型肝炎	1	3	39	403
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	4	10	89
	23 エキノコックス症	-	-	-	22
	24 エムボックス	-	-	-	3
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	-	8
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	5
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	2	6
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	25	149
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	2
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	6	18
	40 つつが虫病	-	-	5	104
	41 デング熱	-	3	21	107
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	4	93	400
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	3	18
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	4	15
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	1
	61 レジオネラ症	1	23	207	1,538
	62 レプトスピラ症	-	-	11	17
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	2	24	302
	65 ウイルス性肝炎	-	3	22	162
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	9	89	870
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	21
	68 急性脳炎	-	5	33	366
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	18
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	18	119
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	14	94	988
	72 後天性免疫不全症候群	1	4	59	562
	73 ジアルジア症	-	-	4	25
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	5	37	492
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3	62
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	121	2,581
	77 水痘(入院例に限る。)	-	3	59	470
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	17	100	1,090	9,342
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	13	111
	81 破傷風	-	1	14	63
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	4	62
	84 百日咳	117	840	11,622	72,448
	85 風しん	-	-	2	10
	86 麻しん	-	2	26	222
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	5